



隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小」

隈府小学校
学校だより No33
文責 芹川博文
1月9日(金)

「新しい一歩」

～ 2026年(令和8年)、小さな一歩を大切に ～

保護者の皆様、明けましておめでとうございます。今年も、どうぞよろしくお願いします。冬休み明けのオンライン集会で話した内容をお伝えします。題は「新しい一歩」です。

私は、この冬休み、小学校からの同級生Tさんと鞍岳に登りました。登りながら、一つの思い出話をしました。Tさんの家は私の家と小学校を挟んで反対側にありました。確か5年生の冬休みに入る前、私とTさんは、ある約束をしました。冬休み中、毎朝学校まで走って行き、学校でキャッチボールをして帰るというものです。薄暗く寒い冬の朝、グローブ片手に走って学校に行くと、Tくんも来てキャッチボールをして帰りました。その話をするとTくんも覚えていました。今思うと、よくあんなことをしたもんだと思います。Tくんがいたからこそ出来たことです。あれから約50年過ぎた今でも覚えている冬の思い出です。

新しい1年が始まりました。決めた目標が続くかどうかは分かりません。上手くいくかも分かりません。しかし、何かを自分で決めて、新しい一歩を踏み出すことは、とても大切です。頑張った分、自分の成長や自信になります。誰かと一緒にやれたらもっと頑張れるかもしれません。あなたの頑張る姿で誰かを元気にするかもしれません。小さなことでもいいです。ポイントは「自分で決めて始める」ことです。

ここで、正直に言わなければならないことがあります。先ほど鞍岳に登ったと言いましたが、実は、途中まで車で行ったのです。それも9合目まで。頂上まで歩いたのは約30分間です。往復で1時間程度。普段は四季の里という麓の公園から歩きます。往復で3時間ほどかかります。結構きついです。

ところが、以前、隈府小学校では、5年生が鍛錬遠足としてこの鞍岳に登っていたそうです。大人でも大変な道のりを、当時の隈府小の5年生は歩いて登ったとのこと。えっ、5年生!? と言うことは、6年生は?・・・そうです。6年生はもっと遠い、竜門ダムの先にある八方ヶ岳という山に登っていたそうです。皆さんのお父さんやお母さんも経験されたかもしれません。聞いてみてください。

どんなに険しく遠い道も、歩みを止めないで歩き続けると目的地にたどり着きます。一歩の歩幅はわずかかもしれませんが、しかし、その積み重ねが大きな力となります。

自ら考え、なかまと高め合いながら、今日から始まる後期後半の仕上げの3カ月、一日一日を味わいながら歩いていきましょう。皆さんの踏み出す「新しい一歩」を、応援しています。



学校(3階)から見える鞍岳山

これも隈府の特徴? ～ 冬休み明けに感じたこと ～

冬休み明けは、痛いような厳しい寒さの朝となりました。その初日の朝、印象的だったことが二つあります。

一つ目は、「明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします」と、新年の挨拶する児童の多さ。新鮮で清々しい空気を感じました。これは隈府小というより、隈府地区の文化なのかもしれません。

二つ目は、厳寒の朝にもかかわらず、外遊びをする児童の多さ。白い息を吐きながら朝日が差し込む運動場でドッジボール、サッカー、一輪車など「初遊び」を満喫していました。

新しい年の学校初日、書初め、すごろく、係決めなどを行っている学級もありました。子どもたちは、それぞれ新しい一歩を踏み出したようです。

